

令和5年度

南国市教育委員会事務局
事務事業自己点検シート

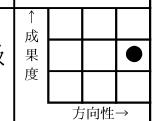
令和6年3月12日（火）
南国市教育委員会事務局
学校教育課
生涯学習課

21世紀を担う子どもたちの「生きる力」を育む保育・教育の推進

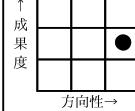
○「六育」に共通する取組

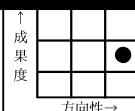
| | | | |
|---|--|--|--|
| | | | ↑成 果度 方向性→ |
| 1 | 保幼小中連携 学力向上 プロジェクト事業 (アクションプラン) | <p style="text-align: center;">全保幼小中学校</p> <p>【取組】 南国市教育振興基本計画及び第2次第2期南国市保幼小中連携学力向上推進プランの実現に向けて、補助対象項目を①算数・数学科の授業改善②国語科教育の充実③英語科教育の充実④道徳教育の充実⑤防災教育の充実⑥特別支援教育の充実⑦食育の充実に絞った取組を進めている。</p> <p>＜南国市保幼小中連携学力向上推進プラン：目標＞ ①チーム学校として組織的な学力対策で、全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査及び標準学力調査の全教科において、同一集団（学年）の全国平均正答率に対する通過率が、前年度の各種調査より上昇する。また、全国学力・学習状況調査において「D層」、高知県学力定着状況調査及び標準学力調査において「評定1」の児童生徒が前年度の調査より減少する。 ②全国学力・学習状況調査、各種アンケート調査において、「授業がよくわかる」及び、「あいさつ」・「掃除」の項目で「強肯定」の割合が、小学校では50%以上。中学校では40%以上を目指す。 ③全国学力・学習状況調査において「家庭学習」の肯定的評価が全国平均を上回る。 ④全国学力・学習状況調査、各種アンケート調査において、教職員・児童生徒とも「一人一人に配置されたPC・タブレット等のICT機器を、授業で週3回以上活用する。」の項目が100%になる。</p> | <p>【成果】 予算措置を絞り継続し取組んでいることにより、南国市の課題（補助対象5項目）として、第2次南国市保幼小中連携学力向上推進プラン補助対象5項目であることの、各校との共有を図ることはできてきた。 また、小中連携学力向上推進委員会を年3回開催し、各中学校ブロックの取組の成果と課題をもとに、今後も教科横断的な学び、汎用的な資質・能力の育成の視点を大切に、南国市の中連携に繋げる事業を進めることを確認できた。 全国学力・学習状況調査、各種アンケート調査において『強肯定』の割合が、「家庭学習」についてはどの項目においても、小・中学校共に全国平均を上回る結果となった。また、「あいさつ」の項目で中学校では49%、「掃除」の項目で小学校では50%、中学校では45%と目標を達成することができた。</p> <p>【課題】 南国市立小中学校の課題としては共有化が図れてきており、成果もでてきてはいるが、保幼小中連携の部分で、事務局がリーダーシップを取って取組を強化することができなかった。また、それの中学校ブロックや学校の取組の成果を、他の中学校ブロックや学校に普及させ、相乗的な南国市の中連携に繋げることがまだまだできていない。 全国学力・学習状況調査において「一人一人に配置されたPC・タブレット等のICT機器を、授業で週3回以上活用する。」の項目が小学校では全国62%、南国市77%、中学校では全国61%、南国市92%と全国を上回る結果となってきているが、目標100%には至っていない。また、「あいさつ」の項目で『強肯定』の割合が、小学校34%と目標を達成することができていない。</p> <p>【今後の取組】 学校経営計画にて、南国市保幼小中連携学力向上推進プランの目標に対して全校で設定がされているかを確認し、補助対象項目のうち一つ以上、各校取組を明文化するよう周知する。また、「保幼小の架け橋プログラム」作成に向け、保幼小中連携の更なる推進をすることで南国市保幼小中連携学力向上推進プラン【令和5年度～令和7年度】の実現を図る。</p> |
| 2 | 安心・安全な学校 プロジェクト事業 (アクションプラン) | <p style="text-align: center;">全小中学校</p> <p>【取組】 小中連携で安心安全な学校づくりを推進するために、より価値のある学習の提供や、いじめや不登校、児童虐待等の対策として、児童生徒に寄り添った教育が行われるように務める。また、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え育む体制づくりを目指す。</p> | <p>【成果】 年度当初に南国市生徒指導担当者・生徒指導主事会を開催し、「いじめの定義や南国市独自で実施している「いじめ・いじめの疑い」の報告等について周知することができた。また、「いじめ重大事態の対応」について校長会及び教頭会で周知することができた。また、全校全学級に『南国市こどもいじめ宣言』ポスターを配布し、児童生徒一人一人がいじめについて考えることができる取組を実施することができた。 本年度から、ゲートキーパー養成研修を初級・中級に分け、夏季休業及び冬季休業中に二日間ずつ開催することができ、南国市内へ異動されてこられた教職員、保健センター、SSW等、関係機関（初級者）及び2回目の受講者（中級</p> |

| | | | |
|---|-----------------------------------|--|--|
| | | <p>者）にも受講してもらうことができた。「SOSの出し方教育」については、令和2年度より全ての南国市立中学校で実施することになっており、本年度も継続した取組ができた。また、保護者用、教職員用、児童・生徒用「自殺予防リーフレット」を改定し、配付・活用することができた。</p> <p>【課題】 いじめの定義の確認やそれに応じた今求められる対応について、校内研等で全教職員に周知はしているが、教職員によってまだまだ認識に差があり対応が遅れることがある。</p> <p>【今後の取組】 いじめ対応については、南国市生徒指導担当者・生徒指導主事会、管理職研修会を継続して開催し、南国市こどもいじめ宣言も、継続して取組んでいく。また、ゲートキーパー養成研修は今年度同様に夏季及び冬季休業中ともに2日間開催し、中級の受講者も増やしていく等、更なる取組の充実を図る。「SOSの出し方教育」の取組については、小学校も含め南国市の取組として継続して取組んでいくために研修会を開催する。</p> | |
| 3 | 不登校プラスワン 未然防止等事業 (アクションプラン) | <p>全小中学校</p> <p>【取組】 年2回のQ-Uアンケートや引き継ぎシートを活用した積極的な生徒指導を行う。また、不登校等学習支援員を南国市の全中学校に配置する。年2回不登校対応の中核的な働きをする小中学校の担当者を一堂に会し、学校相互の不登校対応に関する情報交換を行い、全市的に不登校対応の充実・強化を図り、不登校の未然防止や不登校者数の減少に努める。</p> <p><目標>1,000人当たりの新規不登校児童生徒数 小学校2.0人以下。中学校20.0人以下。 (第3期高知県教育振興基本計画 令和5年度末の目標数値より南国市としての目標を設定)</p> | <p>【成果】 Q-Uアンケートでは、学校満足群が1回目65%、2回目69%と4%の増加、学級不満足群が1回目11%、2回目11%と変化がみられない結果となった。各校で児童生徒理解のための分析検証を行い校内研修等、取組を行っており成果がでてきた学校が複数校ある。また、市教委が全学校を訪問し、学校との情報共有を行い、対策に生かすことができた。本年度は魅力担当者を年4回開催し、不登校の未然防止についての取組を話し合う機会を設けることができた。 経年変化で1000人当たりの新規不登校者数を見ると中学校20.0人以下の目標に対して、令和4年度7月末現在で15.8人であったが、令和5年度7月末現在では9.0人となり、減少傾向にある。</p> <p>【課題】 各学校とも不登校の未然防止や初期対応、個別対応等をおこなってはいるが、新型コロナウイルス感染症対策の余波等、様々な要因がからみあい、不登校者数は小中学校ともに増加傾向にある。1000人あたりの新規不登校児童生徒数は、小学校2.0人以下の目標に対して令和4年度7月末現在で2.6人であったが、令和5年度7月末現在では6.1人と増加している。</p> <p>【今後の取組】 担当者会で協議した内容を、各校で円滑に共有できるよう演習への参加体制や協議内容を工夫していく。その中で、保幼小・小中学校間の引継ぎを密に行うこと、新規不登校の発生を抑えていくように、『未然防止に力を入れた』取組を推進していく。また、ICTを活用し、学校と家庭、学校と教育支援センターふれあい、さらには、保健室等と教室をオンラインでつなぎ、少しずつでも学校や教室に居場所ができるような取組を各校進められるよう支援する。</p> |



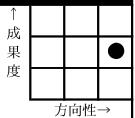
| | | | |
|---|--------------------------------------|---|--|
| | | | ↑ 成 果 度 |
| 4 | コミュニティ・スクール 推進体制構築事業 (学校運営協議会) | <p>全小中学校</p> <p>【取組】 社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図るために、保護者や地域住民等が学校運営に参画する取組の一つであるコミュニティ・スクール（以下、CS）の体制整備を行う。そのために、中学校ブロックや各校へCSディレクターを配置し、本年度、全小中学校での学校運営協議会設置に向けて、地域と学校をつなぐ役割と設置に向けての準備ができる体制を整える。 また、管理職とCSディレクターが、地域とともに推進する学校についての共通理解を図ることができるよう研修会を実施する。</p> | <p>【成果】 今年度は、全ての小中学校に学校運営協議会が設置され、積極的に地域との連携を図る活動が行われた。また、学校運営協議会の配置及び運営については、CSディレクターが中心となって情報収集や地域と学校の連携強化に向けて、積極的に活動することができた。南国市CS研修会を開催し、CSディレクターの実践や高知県内のCSの動きをCSディレクターへ周知することができた。</p> <p>【課題】 学校運営協議会を設置する予定である後免野田小学校においては、設置時期が2月となり、年間を通じて実施できなかった。また、学校運営協議会の実施において、各校の認識に差があり、地域とともに推進していく学校づくりについての共有化が十分であるとは言えない。CSディレクターの活用についても、各校に差があり全ての学校で活用されていない。</p> <p>【今後の取組】 年度初めに、学校運営協議会の在り方について共通認識を図り、地域学校協働活動推進員の協力のもと、引き続き学校運営協議会の運営が円滑に行われるよう支援していく。また、南国市CS研修会を行い、新たな情報を学校と地域が共有できる場を設定していく。</p> |
| 5 | 校務支援員配置事業 | <p>大篠小、三和小、後免野田小、長岡小、岡豊小 日章小、香長中、香南中、北陵中、鳴ヶ池中</p> <p>【取組】 教員が本来の教育活動に専念できるよう専門性を必要としない業務を代わって行う「校務支援員」を南国市立小中学校に配置することにより、児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制整備など、教員の業務負担の軽減を図り、学校教育活動の充実につなげる。（本年度10校）</p> <p><目標> ①チーム学校を実現し、学校全体の業務の効率化を図るために、令和4年2月までの時間外勤務時間を基本として、令和5年2月までの平均時間が5%削減している。 ②教諭等が子どもと向き合う時間や教科研修の時間を確保するために、6・10月の県教委作成の教職員意識アンケートより ○「子どもに向き合う時間が増えた」と感じる教員の割合 (1) 10月は6月より上昇している。 (2) 10月はさらに70%以上になっている。 ○「多忙感の軽減に繋がった。」と感じる教員の割合 (1) 10月は6月より上昇している。 (2) 10月はさらに70%以上になっている。 </p> | <p>【成果】 「子どもに向き合う時間」が増えたと答えた教員が6月より上昇している学校は10校中7校あり、そのうち4校が肯定的評価が80%を超えており、また、「多忙感の軽減に繋がった」と感じる教員の割合が6月より上昇した学校は4校であった。前年度から教員業務支援員の配置があった学校は、支援員の役割を教職員が十分に理解し、人間関係の構築や、教員業務支援員も働きやすい環境を整備してきていることが要因として考えられ、勤務時間外の平均時間削減につながっている。</p> <p>【課題】 指定事業や研修、公開授業等の指導案づくりへの対応、定期テスト等の準備、部活動の大会等への参加により、時間外在校等時間は減少していない。また、不登校支援や児童・生徒・保護者への対応も増えており、一部の教員に負担の偏りがある。</p> <p>【今後の取組】 勤務状況管理を市教委で確認し、時間外の実態を把握したうえで、管理職への働きかけを増やすことで管理職から個々の教員にあたり、先の見通しと、自身の進捗状況を把握して業務にあたるよう、タイムマネジメントの意識の定着を図れるようにする。また、教員の教材作成補助や家庭学習用資料の準備及び印刷、配布等をサポートする校務支援員を引き続き配置し、増員もすることで教員の業務負担軽減を図る。</p> |

| | | | | |
|---|-------|--|--|--|
| 6 | 就学援助費 | <p>【取組】 経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学に必要な援助を行っている。保護者には、家庭配付の手紙や市のホームページ等で周知を図っている。また、申請については随時の受け付けを行っており、各学校でも保護者からの相談に対応している。</p> | <p>【成果】 経済的事情のある保護者に対し、就学援助費の助成を行うことにより、教育機会を均等に提供できている。</p> <p>【課題】 保護者から「制度自体は以前から知っていたが、対象外と思い込んでいたため申請をしたことがなかった」との意見があった。援助対象者の目安をわかりやすく伝える工夫が必要である。</p> <p>【今後の取組】 オンライン学習費の支給について、引き続き他市の状況を参考にしながら援助内容を検討する必要がある。</p> |  ↑ 成果度 方向性→ |
| | | ○「智」の取組 | | |

| | | | | |
|---|---------------------------------------|--|--|--|
| 7 | 全国学力・学習状況調査 到達度把握・授業評価 システム推進事業 | <p>全小中学校</p> <p>【取組】 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証することで南国市の教育課題を焦点化し、小中連携による組織的なPDCAサイクルによる「学び」の質の更なる向上を図る。</p> <p><南国市保幼小中連携学力向上推進プラン：目標> ①チーム学校として組織的な学力対策で、全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査及び標準学力調査の全教科において、同一集団（学年）の全国平均正答率に対する通過率が、前年度の各種調査より、小学2年3年6年、中学1年3年が下回る結果となった。全国学力・学習状況調査の質問紙において、「授業がよくわかる」の強肯定（当てはまる）の割合が、小学校国語で46.8%、小学校算数で43.2%、中学校国語で34.7%、中学校数学で40.2%、中学校英語で24.8%と、小学校50%及び中学校40%の目標値に中学校の数学以外は達していない。</p> <p>②全国学力・学習状況調査、各種アンケート調査において、「授業がよくわかる」と「あいさつ」・「掃除」の項目で「強肯定」の割合が、小学校では50%以上、中学校では40%以上を目指す。</p> <p>③全国学力・学習状況調査において「家庭学習」の肯定的評価が全国平均を上回る。</p> <p>④全国学力・学習状況調査、各種アンケート調査において、教職員・児童生徒とも「一人一人に配置されたPC・タブレット等のICT機器を、授業で週3回以上活用する。」の項目が100%になる。</p> | <p>【成果】 各校の組織的な授業改善、PDCAサイクルによる学力向上の取組の積み重ねにより、南国市の共通課題である「書くこと」の力は着実に身に付いてきている。小学校の共通課題である「話す・聞く」（小学校）の項目において小学校正答率83.9%（全国平均+1.7%）と全国平均を上回る正答率となった。全国学力・学習状況調査の結果を受け、「知識・技能」に焦点化し、国語科・算数学を中心として南国市小中連携担当者会を開催して取組の周知を図った。</p> <p>【課題】 全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査及び標準学力調査の全教科において、同一集団（学年）の全国平均正答率に対する通過率が、前年度の各種調査より、小学2年3年6年、中学1年3年が下回る結果となった。全国学力・学習状況調査の質問紙において、「授業がよくわかる」の強肯定（当てはまる）の割合が、小学校国語で46.8%、小学校算数で43.2%、中学校国語で34.7%、中学校数学で40.2%、中学校英語で24.8%と、小学校50%及び中学校40%の目標値に中学校の数学以外は達していない。</p> <p>【今後の取組】 チーム学校として組織的な学力対策で、同一集団（学年）の全国平均正答率を基準とした通過率の経年変化を意識し、全ての教科において「書くこと」に焦点をあてた継続的な取組が必要である。特に、国語科教育の充実及び、算数・数学科の授業改善の取組を重点に置き推進していく。 そのために、南国市の全児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証したものを、校長会や南国市小中連携担当者会等で各学校に情報提供していく、小中・小小連携を意識して取組むことで、各校の校内研等での活用を促し、「学び」の質の更なる向上を図る。</p> |  ↑ 成果度 方向性→ |
|---|---------------------------------------|--|--|--|

| | | | |
|---|--|--|---|
| | | | ↑ 成 果 度 |
| 8 | 一人一台パソコンを活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善事業（アクションプラン） | <p style="text-align: center;">全小中学校</p> <p>【取組】 授業支援ソフト（Classroomやロイロノート・スクール）のオンライン研修を年度当初に行う。特に昨年度活用が上がらなかつた小学校3校には受けていただく。 学習ドリルソフトについて、5月16日南国市情報教育主任研修会にて、Benesseより商品の説明を行っていただく。また、同研修会にて、中学校のプログラミング教育についても説明をしていただき、小学校と中学校、そして高等学校の一連のつながりも意識できるようにしていく。</p> | <p>【成果】 昨年度、授業支援ソフト（ロイロノート・スクール）の活用が上がらなかつた小学校3校を含め、全ての小中学校で対面及びオンライン研修を実施することができ、各教員のスキルアップ向上に繋げることができた。また、学習ドリルソフトの研修会を情報主任対象に開催し、導入に向けた取組を行うことができた。ロイロの活用状況を示す、南国市の数値は、昨年11月時点では1233だったが、今年11月時点で2117となり、同時期として約2倍になるなど、各校の活用率が増加している。学習ドリルソフトの活用率は、12月時点で31.7%（全国平均+1.7%）であり、全国平均を上回る結果となった。 また、中学校のプログラミング教育として、高知高専（岩崎教授とゼミ生）との連携を進めることができた。</p> <p>【課題】 ロイロノート・スクールの活用状況を示す数値がなかなか上昇しない学校がある。また、学習ドリルソフトの活用率が顕著に低い学校がある。今後、さらに学校の取組の方針やスケジュール、また困りごとはないか等を聞き取りをし、支援もしていく。</p> <p>【今後の取組】 ロイロノート・スクールの活用状況を示す数値がなかなか上昇しない1校、及び学習ドリルソフトの活用率が低い1校に対しては、継続して取組強化を図っていく。年度初めには必ずロイロノート・スクールの研修を行っていただくよう、ロイロノート担当者とも連携を図り、早期に研修日を設定していく。</p> |
| 9 | 放課後等学習支援事業 | <p style="text-align: center;">全小中学校</p> <p>【取組】 南国市では全小中学校が放課後等の補充学習を実施し、学習のつまずきに早期に対応し、よりきめ細やかな個別指導や家庭学習指導を行っている。そのため、放課後等学習支援員を配置し、放課後の加力学習に向けて個々の児童生徒の進度に合わせたプリントの作成や、多くの児童生徒に個別対応ができるような体制がとれるようにして、児童生徒の個々のつまずきについて見取りを行って対応をしている。</p> | <p>【成果】 放課後等学習支援員を継続して配置できるよう時間数を配当することで、各校での個別指導に対応できる体制づくりを支援することができた。各校での放課後の個別対応の体制維持を行うことで、より多くの児童生徒が参加できる場を設定することができた。</p> <p>【課題】 昨年の実績をもとに、各校へ時間数を配当しているが、外部の学習支援員を確保することが難しく、配当時間数を使い切ることができていない学校もある。外部の学習支援員については、学生に依頼することも多いが、時期によって確保が難しいこともあります。放課後等学習支援事業を開始する時期を遅らす等、短期間で実施することで時間数が余ることがある。</p> <p>【今後の取組】 全小中学校での放課後等の加力学習が充実したものになるように、放課後等学習支援員を継続して配置するようにする。また、各校での必要時間数を確認して時間配当を行うことと、年度途中での実績報告と必要時間数の見込みを確認しながら、個別対応できる環境を整えていく。</p> |

○「徳」の取組



| 管内保幼小中学校 | | |
|--------------------------------------|---|--|
| 10 スクールソーシャル ワーカー（SSW） 活用事業 | <p>【取組】 要保護・要支援の児童生徒（特に不登校等長期欠席児童生徒）及びその心配が懸念される児童生徒に対して、社会福祉等の専門的な知識・技能を用いて環境への働きかけを行い、改善を図るとともに、学校内における校内支援委員会等チーム体制への支援及び関係機関等との効果的・機能的な連携方法についての実践を展開する。</p> | <p>【成果】 香長中・香南中ブロック、鳶ヶ池中ブロック、北陵中ブロックにそれぞれSSWを配置し、学校や関係機関と密に連携を図ることで、保護者や児童生徒との関係性の改善に務めることができた。 また、校内の児童生徒への支援等、学校や教育支援センター、保健福祉センター、こども相談係と連携することができた。就学前の子どもたちへの支援として、SSWが親育ち・特別支援コーディネーターと協力して保育所（園）、幼稚園の保育士や保護者とかかわることで、小学校への繋ぎを行うことができた。</p> <p>【課題】 SCのように各校1名配置でなく、各中学校ブロックに1名入ってもらっているため、固定した曜日や時間帯での勤務でないため校内支援会の時間設定等の調整に困難さがあり、SSWが全ての学校の全ての時間に入ることができなかつた。また、SCとSSWの連携が円滑にできていないケースがあった。時間調整の工夫やSSWの役割について学校にも、今一度確認してもらう必要がある。</p> <p>【今後の取組】 SSWが保幼小・小中の連携において、保幼から小学校への情報共有、小学校から中学校への情報共有を図り、課題の検討やその他の専門機関へのつなぎに向けた準備がスムーズに行えるように、南国市が開催する魅力担当者会、ふれあい連絡協議会、南国市まほろばの会（南国市勤務のSCによる定例会）へのSSWの参加を依頼し、各機関との連携をさらに密なものにしていく。</p> |
| | | |

○体の取組

| | | | |
|----|--------------------------------------|--|--------------------------------|
| | | | ↑ 成 果 度 |
| 11 | 部活動地域連携等実証事業 及び 部活動地域連携等体制整備事業 | <p style="text-align: center;">全中学校</p> <p>【取組】 地域移行を円滑に進めていくにあたって、コーディネーターが調整役を担い、関係団体や地域、学校との連携・協働を進めていく。 R4～R5年度を準備期間とし、R6年度に1校（香南中学校）を南国市運動部活動地域移行推進校（実証校）として部活動を地域移行する。また、その他の3校（北陵中学校、鳶ヶ池中学校、香長中学校）は、可能な運動部活動から地域移行していく等、南国市運動部活動の地域移行を円滑に進めていくにあたって、調整役を担い、関係団体や地域、学校との連携・協働を進めていくことができた。また、年5回以上の検討会を開催し、方針の確認や進捗状況の報告等の場を設けることができた。</p> <p>【課題】 年度当初は、生徒や保護者等に不安を与えないように、保護者・生徒への手紙、なんこく広報、PTA広報、学校での説明会等、南国市運動部活動地域移行への情報提供については実施してきた。しかし、現在も様々な課題に対し柔軟的に計画を変更しながら、部活動地域移行を推進しているため、時間もかかっており、進行経過等の全体への周知ができていない。</p> <p>【今後の取組】 学校と各機関の調整役を担う運動部活動の地域移行のためのコーディネーターを2名配置し、南国市として令和7年度までをめどに、総合型地域スポーツクラブまほろばと連携して、運動部活動を各学校の実態に合わせて、段階的に地域移行していく。</p> | ● 方向性→ |
| 12 | 運動部活動指導員配置促進事業 | <p style="text-align: center;">全中学校</p> <p>【取組】 南国市部活動ガイドラインの遵守とともに、担当する教職員の負担軽減を図りながら、生徒の自主性や協調性、責任感を育む等、運動部活動の一層の充実を図る。また、地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できる十分な体制整備に努める。</p> <p>【成果】 今年度は、市内全ての中学校に配置となった。専門性を求められる指導ができるにより、生徒や保護者からも信頼を得ている。部活動指導員が指導できる時間は、原則教員がつかないことも浸透し、教員の負担軽減にもつながっており、配置による効果は高い。また、学校教育の中での活動において求められる、資質の向上に向けた研修へも参加することができている。</p> <p>【課題】 部活動指導員になっている方の本来の仕事や学校（大学生）等、多忙であるため、部活動指導員が指導に関われる時間に限度がある。そのため、大会前の集中した期間等では、対外試合等を含め従来の教員主導となってしまうことがある。また、現在の部活動指導員ができなくなった時に、次を引き継ぐ方がいるか等、指導者の確保が課題である。</p> <p>【今後の取組】 南国市部活動ガイドラインが遵守されているかについて、管理職との情報共有をしながら各校の取組の成果等を明らかにし、運動部活動配置活用事業の取組を継続していく。来年度は、香南中の2つの部活動に配置している運動部活動指導員が、総合型地域スポーツクラブまほろばとの連携による指導へと移行していく。</p> | ↑ 成 果 度 ● 方向性→ |

○「食」の取組

| | | | | |
|----|---------------------|---------------|--|--|
| 13 | 南国市学校給食 アドバイザー事業 | たちばな幼稚園、全小中学校 | <p>【成果】 アドバイザーの任期満了に伴い、2名へ委嘱更新、1名へ新規委嘱を行った。令和5年9月27日に令和5年度第1回の会議を開催。中学校における食育や残食対策、オーガニック給食を議題とし、各委員からは、ビジュアルを意識することや、地元企業を大事にすること、残食問題には学校の教員とともに繰返し取組む必要性があることなどの意見が上がった。会議の概要について広報なんこく11月号に掲載し、市民に広く周知することができた。</p> <p>【課題】 学校給食には、決められた単価内での提供、かつ生きた食育教材としての質と多様性を維持することが求められる。食材費高騰や残食問題への対応とともに、本市の歴史ある学校給食や食育への取組を維持発展させていく必要がある。</p> <p>【今後の取組】 年度末の第2回会議においては、栄養教諭配置校のうち2校における食育の取組を報告し、情報共有や意識向上につなげていく。</p> |  ↑ 成果度 方向性→ |
| | | | | |

○「才」の取組

| | | | | |
|----|---|-------------|---|--|
| 14 | 特別支援学級等 専門家活用事業 【合理的配慮 コーディネーター配置】 | 大篠小学校・香長中学校 | <p>【成果】 自閉症・情緒障害特別支援学級の授業づくり支援事業に南国市内の自閉症・情緒障害特別支援学級担任に参加してもらうことで「自立活動」においての指導力の向上を図ることはできた。また、3学期には、「合理的配慮コーディネーターの会（合の会）」を開催し、合理的配慮コーディネーターの役割や人材確保に向けた助言等をいただき、次年度に向けた準備を行うことができた。</p> <p>【課題】 今年度、合理的配慮コーディネーターの人材を確保することができておらず、予定していた香長中学校区2校へ配置することができなかった。また、「合理的配慮コーディネーターの会（合の会）」も1・2学期は開催することができなかつたため、「合理的配慮」のための校内体制整備を整えることが十分にできなかつた。各校での特別支援教育の充実に向けて、各校の取組の状況把握等、情報共有をしていくことが必要である。</p> <p>【今後の取組】 インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育を推進していくために、年度当初から配置できるように人材確保を優先し、今後も合理的配慮コーディネーターを配置する。コーディネーターの活用については、管理職とともに推進の意義や今後のスケジュール等を確認し、「自立活動」への指導・助言も行ってもらう。また、「合理的配慮」の事例を通常の学級にも広げていけるような体制整備を考える。</p> |  ↑ 成果度 方向性→ |
| | | | | |

| | | |
|----------|--------------|--|
| ↑成 果度 | ● 方向性→ | |
| | | |
| 15 | 南国市美術展覧会開催事業 | <p>管内保幼小中学校</p> <p>【取組】 子どもたちの图画工作・美術活動への関心・意欲を高めるとともに、作品を通して豊かな情操の育成を図ることを趣旨とし、幼児・児童・生徒の部として一般の部と同時開催している。</p> <p><部門> ①絵画②お話の絵③版画④デザイン⑤硬筆⑥毛筆⑦工作・工芸・立体作品⑧彫塑（幼児の部は⑤⑥を除く）</p> <p><審査> 各分野で造詣が深い方々を審査員に迎え、児童生徒の作品を審査</p> <p>※幼児の部は本年度は、5才児に加え4才児を対象とした。</p> <p><展示> 児童・生徒の部の入選・特選作品、幼児の部、あすなろコーナー（特別支援学級の児童生徒）</p> <p><講評> 教職員の指導の参考となるよう、幼児の部を含めた審査員による講評のまとめを各校・幼稚園・保育所（園）に配布</p> <p>【成果】 市内20校の児童生徒と、市外校に通う南国市在住の生徒から、8部門9,826点の出品があり、特選308点、入選2,687点であった。幼児の部は8施設から出品があり、6部門439点の全作品を展示した。あすなろコーナーでは出品146点の全てを展示した。会期中の来場者は、一般の部と合わせて延べ4,180人であった。</p> <p>【課題】 幼児の部については、教育課程との兼ね合いから市内の複数の施設から出品がされていないこと。幼児及び児童生徒の部については、次年度は一般の部と分かれての開催となることが決まっているので、展示内容や配置、応募要件などの変更が必要となること。また、事務局職員の業務負担が課題に挙げられる。</p> <p>【今後の取組】 幼児・児童生徒数の減少や一般の部との分離開催を踏まえた新しい南国市美術展覧会の形を模索しながら、子どもたちの創作意欲や情操教育の向上を図ることができるように取り組んでいく。幼児の部については「展覧会を通して小学校入学に向け他の園との交流が図れる場とすること」が目的であるため、より多くの施設から出品されるよう働きかけていく。また、職員の業務軽減に向け事業の効率化や事業を外部へ委託することについても検討する。</p> |

○「防」の取組

| | | |
|----------|-------------------|---|
| ↑成 果度 | ● 方向性→ | |
| | | |
| 16 | 高知県学校安全 総合支援事業 | <p>県指定校：香南中学校</p> <p>【取組】 南国市防災教育研修会を開催し、学校安全計画、危機管理マニュアルの見直しや本事業の拠点校である香南中学校の取組を共有する等、実践的防災教育の普及や啓発活動を進めている。</p> <p>①地域や関係機関との連携防災実践委員会の開催（年間3回） ②防災意識アンケート実施（年間2回） ③効果的な避難訓練の実施（様々な場面や状況を想定して複数回実施【10回】） ④実践的防災教育推進事業の研究発表会 ⑤南国市岩沼市小中学校交流事業による訪問（夏季休業中：事前学習含む）</p> <p>【成果】 拠点校である香長中学校は校区の3割が津波浸水想定区域に入り、校区の小学校も津波浸水想定区域となっていることから、実態にあわせた敷地内での避難訓練や経路等の見直しができた。また、地域が運営する防災訓練への参加や防災マップの作成、地域の食生活改善推進委員との防災食づくり等、地域や防災関係機関との連携体制を図ることに力を入れ、防災アンケートにおいて、家庭・地域を巻き込んだ防災教育実施が70%以上となり、成果があった。 防災士の資格取得については、令和5年度は市内全中学校から60名が参加し、前年度を8名上回る31名（取得率52%）の防災士資格取得となった。 岩沼市小中学校交流事業については、姉妹都市提携50周年事業として、小学生10名、中学生13名、教職員等14名の合計37名で参加し、防災に関する意識を高めることができ、各校において校内発表等で周知することができた。</p> <p>【課題】 地震に関して意識が高まっているが、各種調査では不審者侵入防止の3段階（校門、校門から昇降口まで、昇降口）のチェック体制について、一定の対応はしたが、構造上等の問題によって機能が発揮していない学校が複数ある。</p> |

| | | | | |
|----|----------------------|--|--|--|
| | | | <p>【今後の取組】 地震における影響が、津波に関する対応に視点が強くなっている傾向があり、家屋倒壊や家具の固定についての対応について取り組みを深めることも必要と考える。拠点校が南国市北側にある北陵中に移ることから、自然災害等にも目を向けた取組を普及していく。</p> | |
| 17 | 南国市小中学校通学路 安全対策事業 | <p>全小中学校</p> <p>【取組】 継続的に通学路の安全を確保するため、緊急合同点検後も合同点検を継続するとともに対策実施後の効果把握も行い、対策の改善・充実を図る。これらの取組をP D C Aサイクルとして繰り返し実施し、通学路の安全性を向上させる。</p> | <p>【成果】 通学路における危険箇所の把握については、校長が保護者や地域住民の意見を聴取している。また、校長以外から通学路の危険箇所について情報を得た場合は、その都度、関係校と市教委が内容を確認し、通学路安全対策連絡協議会において、重点課題を設定した。その上で、効率的・効果的に合同点検を実施し、対策が円滑に進むよう関係者間で連携を図ることができた。</p> <p>【課題】 危険箇所が増加傾向にあるため、各機関の予算の都合により優先順位を付けざるを得ない状況がある。また、立地条件により早急な対策が困難な場合があるため、学校と関係機関との子どもの安全確保のための意思疎通が大切である。</p> <p>【今後の取組】 合同点検結果に基づく対策実施後の箇所等について、児童生徒等が安全に登下校できているか等を確認するため、学校、保護者、地域から意見を収集し、進捗管理する。また、対策実施後も、合同点検や効果把握の結果を踏まえて、対策内容の改善・充実を図っていく。今後も、点検結果や対策内容については、関係者間で認識を共有するために、「対策一覧表」及び「対策箇所図」を作成し、南国市HP等で公表していく。</p> | |
| 18 | わんわんパトロール事業 | <p>南国市全域</p> <p>【取組】 子どもたちの安心・安全を見守るために、地域の力を借りた「ながら防犯」に取り組んでいただける方を募集している。さらに、防犯という視点だけでなく、本事業の可能性を探る。</p> <p>令和元年：3家庭、令和2年：5家庭、令和3年：6家庭の登録、令和4年。</p> | <p>【成果】 多くの方に南国市の取組を周知するために、犬の予防接種をする会場へ訪問し、チラシ配布や説明を行った。また、動物病院の方にもご協力を呼び掛けた。また、スクールガードリーダーの会などで、南国市の取組として事業説明を求められ、先進的な役割を担うことができている。現在のところ20家庭（24匹）の登録がある。</p> <p>【課題】 今年度の登録者数は3家庭（3匹）であった。内容には興味関心を持ってくれる方も多くいるが、子どもの見守り時間に犬を連れて散歩することが朝晩ともに難しいといった意見があった。</p> <p>【今後の取組】 現在の取組を継続していくながら、南国市少年育成センターと連携をとり、パトロール中にチラシを配付していただきたり、市内獣医師会にも協力をいただきながら、市内全域に活動の輪を広げ、多様な世代や事業者が日常活動の機会に気軽に実施できる「ながら見守り」等の推進をしていく。</p> | |

すべての世代の人々が「心豊かに学び続ける社会」を目指した生涯学習の推進

(1) 地域全体で学校教育を支援する体制づくりの推進

| | | | | |
|---|------------|---|--------------|------|
| 1 | 地域学校協働本部事業 | 全小中学校 | ↑成 果 度 | 方向性→ |
| | | <p>【取組】</p> <p>地域が学校と連携して子どもの見守り、授業補助、放課後等の学習支援を行うことで、地域・家庭の教育力を向上させ、教員が子どもに向き合う時間を確保する。また、地域で子どもたちを育していくことにより、子どもたちのコミュニケーション能力の向上など、学力以外の面での成長が期待できる。</p> | | |

【成果】

授業補助、放課後等の学習支援を中心として実施し、地域と学校が協働して子どもの健やかな成長を見守る体制を構築することに寄与した。家族・教員以外の大人から声をかけてもらう機会が増えることにより、安心安全な学校づくりの実現につながっている。

【課題】

活動が活発化する一方で本部事業で執り行う予算額の不足が複数校から聞かれる。

【今後の取組】

地域と学校が一体となって子どもに関わることができるようできる限りの支援をしていきたい。

(2) 地域住民が主体的に学び楽しむ生涯学習の推進

①高齢者教室の充実

| | | | | |
|---|---------|--|--------------|------|
| 2 | 高齢者教室事業 | 65歳以上の高齢者 | ↑成 果 度 | 方向性→ |
| | | <p>【取組】</p> <p>教室生としておおむね65歳以上の方を公募し、健康教室や歴史教室・環境問題・交通安全など、様々な学習を市内8教室で年10回ずつ開催している。</p> | | |

【成果】

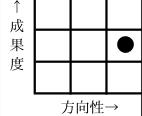
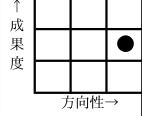
令和5年度は、8教室で合計361名の学級生がいる。各教室において学級長・会計等の役職を置くことにより、一定自主運営ができる、市と連携をした活動ができている。移動教室等、高齢者にとって楽しみや生きがいとなっている。

【課題】

新型コロナウィルス感染拡大の影響が大きく、申込学級生が減少している。また、予算の関係で無償の講師が多くなり、講師が固定化している。

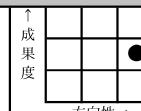
【今後の取組】

移動教室への参加者現象対策として、各教室の交流のためにも全教室一緒に教室や移動教室の検討を行う。参加費の値上げ（100円⇒1,000円）を行い、各教室での活動費を増やすことで、活動の幅を広げてもらう。

| | | | | |
|---|---------|-----------|---|---|
| 3 | 成人式 | 20歳の対象者 | <p>【成果】 当日は対象者 312名の出席があり、コロナ前の通常開催とほぼ同じ内容で行うことできた。昨年度と同様にメッセージ動画を、メンバーの1人が南国市出身であるNHK紅白歌合戦にも出場したサウシードッグ（邦楽ロックバンド）からいただき、20歳の門出を祝うことができた。また、当日式典に参加できない方のために、Youtubeのオンライン配信も実施した。</p> <p>【課題】 来賓者より、働き方改革を言われている時勢、1月3日の休日に参加を促されることへの疑問の意見をいただいている。 参加を強制するものではないが、電報やメッセージ動画での対応も可能であることを案内に上手く記載する等、協議が必要である。</p> <p>【今後の取組】 人生の節目の大きな行事であるため、今後も続けていきたい。</p> |  |
| | | ②公民館活動の充実 | | |
| 4 | 公民館活動事業 | 市全体 | <p>【成果】 生涯学習を提供し情報共有できる公民館機能として十分に利活用されている。 各館で地元以外に一般利用者数も増加していることや、放課後こども教室も引き続き行われており各地区に根差した施設となっている。 新型コロナウイルス感染症で実施できなかった事業が数年ぶりに再開したことにより、事業によっては参加者が増えている。 令和4年度の17地区南国市立全公民館利用者数は延べ88,534名であった。</p> <p>【課題】 各館の館長および運営審議委員の高齢化に伴って、力作業が必要な事業の縮小化や人手不足が起こっており、後継者不足が課題となっている。</p> <p>【今後の取組】 大篠公民館と県青年団との事業をきっかけにして、地元にこだわらず公民館の利用や事業へ参加する若者の数を増やしていくために青年団と情報交換や事業への参加依頼を行っていく。</p> |  |
| | | | | |

(3) 人権尊重の理念の普及・高揚を図るための人権学習の推進

①人権教育の推進

| | | | | |
|---|--------------|-------------------------------------|---|--|
| 5 | 人権教育研究協議会補助金 | 市全体 | <p>【成果】 人権啓発事業、男女共同参画事業については、令和4年度より総務課じんけん係に業務移管されている。</p> <p>【課題】 特になし</p> <p>【今後の取組】 補助金については、引き続き継続していく予定である。また、南国市人権教育研究大会開催のため、引き続き必要な支援を行いたい。</p> |  ↑ 成果度 方向性→ |
| | | 【取組】 南国市人権教育研究協議会に対し、補助金を交付している。 | | |

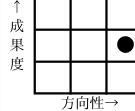
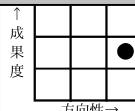
(4) 魅力あふれる生涯スポーツの振興

①生涯スポーツの推進

| | | | | |
|---|--------|--|---|--|
| 6 | 市民体育大会 | 市全体 | <p>【成果】 7/16～1/14の間、16種目、延べ1,233名が参加した。令和2～4年度はコロナの影響で多くの競技が中止になったが、令和5年度は全て開催することができた。</p> <p>【課題】 コロナ前に開催していた大会と比べると、各競技での参加人数が減少している。（16競技中12競技が減少傾向）</p> <p>【今後の取組】 近年、生涯スポーツに対する市民の意識は高まっており、今後もスポーツの裾野を広げるために、スポーツ協会と協働し、今後も初心者でも気軽に参加できるスポーツフェア的な大会として展開していきたい。</p> |  ↑ 成果度 方向性→ |
| | | 【取組】 第61回市民体育大会を開催。「市民の健康増進と、活気に満ちた地域社会の発展を図ること」を目的としている。生涯にわたってスポーツに親しみ、健康の保持増進や体力向上のみならず、誰もが生きがいを持ち、心豊かな生活を過ごしていくことを推進している。 | | |

| | | | | |
|---|--|--|---|--|
| 7 | スポーツ推進委員連絡協議会等と連携したニュースポーツ及び生涯スポーツの普及・総合型スポーツクラブとの協働 | 市全体 | <p>【成果】 例年開催しているイベントとして、「さわやか健康ウォーキング」（毎年10月開催）について、19チーム76名の参加があった。また、毎年2月開催の「スポーツフェスティバル」については17チーム82名の参加があり、モルックなどのニュースポーツを取り入れて老若男女問わず楽しめるイベントとなっている。</p> <p>【課題】 「まほろばクラブ南国」会員数については、コロナ禍の影響により令和2年度から減少傾向にある。サークル数は50サークル、会員数は898名となっている。 (コロナ前は1,000人以上)</p> |  ↑ 成果度 方向性→ |
| | | 【取組】 誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる目的とした生涯スポーツの普及と振興のため、総合型地域スポーツクラブ「まほろばクラブ南国」を核として、スポーツや福祉関係団体等が連携し、スポーツに関する情報の一元化や提供などを行うことにより、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進する。 総合型地域スポーツクラブ「まほろばクラブ南国」は、南国市スポーツ協会や南国市スポーツ推進委員連絡協議会等の協力を得て、市民や地域に活動の輪を広げている。 | | |

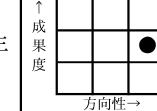
| | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------------|------|---|---|--|--|--|--|--|---|--|--|--|
| | | <p>【今後の取組】</p> <p>総合型地域スポーツクラブ「まほろばクラブ南国」に南国市スポーツ推進委員連絡協議会会長が理事として参加し、組織としてイベントに積極的に協力している。生涯スポーツのコーディネーターであるスポーツ推進委員は、総合型クラブにおいて中心的役割を占めており、今後も情報の共有化を図る事が大切である。</p> | | | | | | | | | | |
| 8 スポーツ協会との連携による競技スポーツの振興と競技力の向上 | 市全体 | <p>【成果】</p> <p>9月：高知県勤労者剣道大会（約200人）、11月：小学生駅伝競走大会（31チーム249名）、11月：高知県柔道大会（31チーム136名）、2月：南国市駅伝競走大会（11チーム92名）を各連盟と連携して開催。補助金等を支出した。</p> <p>【課題】</p> <p>スポーツ協会関係者及び地元体育会の高齢化が進み、当日の運営が困難な大会がある。そのため、足りない人数については教育委員会の内外を問わず市職員に依頼し、派遣することで補っている。</p> <p>【今後の取組】</p> <p>南国市における競技スポーツの振興と競技力向上において、競技大会の定期的な開催は、選手の目標となり励みにもなるので継続的な取組は必要と考える。</p> | ↑ 成果度 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 方向性→ | | | | | | ● | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | ● | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| (5) 地域における青少年健全育成活動 | | | | | | | | | | | | |
| ①青少年の健全育成 | | | | | | | | | | | | |
| 9 補導活動 | 市内全域 | <p>【成果】</p> <p>毎年4月に市内全小学校を訪問するなど児童生徒への青色回転灯パトロールカーの認識度は上がってきてている。今後も巡回パトロールなど継続した活動を行うことで一層の不審者対策・補導活動へ繋げていく。</p> <p>【課題】</p> <p>地区補導委員の高齢化による人数減少。</p> <p>【今後の取組】</p> <p>継続した地域の巡回パトロール。学校・警察など関係機関との情報共有。地区補導委員数の減少を少年警察ボランティアとの連携により活動の継続へ繋げていく。</p> | ↑ 成果度 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 方向性→ | | | | | | ● | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | ● | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|----|--------|----------------------------|---|--|
| 10 | 健全育成活動 | 市内全域 | <p>【成果】 コロナやインフルエンザの影響で内容を変更した行事を開催した。ジュニアリーダーによるどきわくアドベンチャーやカヌー教室、子ども会農園、人形劇キャラバンを行うなど一定の取り組みは行えた。</p> <p>【課題】 子ども会連合会の加盟小学校数の減少。</p> <p>【今後の取組】 子ども会連合会の加盟小学校数の減少は続いているものの、行事には多くの参加者が集まっており子ども達や親子の交流には一定寄与している。健全育成大会は県大会へ参加で集約し教職員と保護者の負担軽減に繋げた。人形キャラバンについては、特に長く続いていることから活動を途切れさせることのないよう、活動の支援を行っていく。</p> |  ↑ 成果度 方向性→ |
| | | (6) 市民の求める情報提供、心を育む読書活動の推進 | <p>①資料収集及び提供</p> | |
| 11 | 図書館活動 | 市全体 | <p>【成果】 おはなし会やブックスタート事業等を休止することなく実施できた。また、新図書館を見据えて計画的な蔵書整備に努めた。11月からは、新システムへの移行により、スマートフォンでの貸出対応などが可能となり利便性の向上が図られた。</p> <p>【課題】 新図書館を見据えて、蔵書の充実、古い資料の除籍検討などを進めいく必要がある。</p> <p>【今後の取組】 新図書館を見据えた、蔵書の充実、レファレンスサービスの向上、バリアフリーサービスの実施など、各サービスの充実に努めていく。</p> |  ↑ 成果度 方向性→ |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|------------|--|--|
| ②子ども読書活動の推進 | | | |
| | | 市全体 | ↑成 果 度 ● 方向性→ |
| 12 | 子ども読書活動の推進 | <p>【取組】 「第3次南国市子ども読書活動推進計画」（令和2年度～令和6年度）に基づき、「子どもと本を結ぶ人づくり」、「本が身边にある環境づくり」という2つの基本方針に沿って、生涯学習課、学校教育課、子育て支援課、保健福祉センターにおいて取り組みを進めた。南国市子ども読書活動推進委員会を開催して計画の進捗管理を行った。</p> | <p>【成果】 子どもの読書活動推進のため、各組織での広報・啓発、図書館における児童書の充実、おはなし会やブックスタート事業の実施、学童クラブへの配本等により、子ども読書活動の推進を図る取り組みを実施した。</p> <p>【課題】 学校図書館の資料の分類が、日本十進分類法に基づいていないという課題があり、順次、ラベル貼替の作業を進めている。対応が終わった学校もあるが、未対応の学校についても完了させる必要がある。</p> <p>【今後の取組】 「第3次南国市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き関係各課における取り組みを進めていく。</p> |
| ③新図書館の整備 | | | |
| 13 | 新図書館の整備 | <p>【取組】 新図書館の建設整備については、整備計画地の用地取得、移転補償が完了し、造成工事を進めた。また、サービス面については、図書館協議会において図書館サービス計画案の検討を行うとともに、パブリックコメントを実施し、計画案の検討を進めた。</p> | <p>【成果】 新図書館の整備計画地の用地取得、移転補償が完了し、造成工事についても大部分を終えることができた。また、サービス計画案の検討を進めた。</p> <p>【課題】 造成工事及び令和6年度以降に予定されている建築工事について、近隣の方に配慮しながら工事を進め、円滑な事業の推進を図る必要がある。</p> <p>【今後の取組】 令和6年度は、造成工事を完了させるとともに、建築工事に着手し、令和8年春頃の開館を目指し事業を進める。 開館後は、より多くの市民の皆さんに図書館を活用していただきたいために、充実した図書館サービスの提供ができるよう進めていきたい。</p> |

(7) 地域の豊かな市民文化の創造

①文化財の保存・活用

| | | | | | |
|--|----|-------------|--|--|--|
| | 14 | 文化財の保存、活用事業 | 市全体 | <p>【成果】 新型コロナウイルス対策により中止していた文化財審議委員会を、4年ぶりに開催した。文化財を広く知ってもらうために広報誌への掲載や、出版物を作成して配布や販売を行った。</p> <p>【課題】 説明看板の修繕などが十分に行えていない。</p> <p>【今後の取組】 市内の指定文化財をはじめとした各種文化財の保護・普及啓発のために継続して事業を行っていく。</p> |  |
| | | | 市全体 | | |
| | | | 【取組】 <歴史学講座>市内の歴史に関する講座を開催し、最終回には各地区城跡・古戦場跡等、ゆかりの史跡を訪ねるフィールドワークを予定している。 <郷土学講座>文化財についての興味関心を育てるとともに、知識を得る場としてフィールドワークを予定している。 | | |
| | 15 | 文化財講座の開催 | 市全体 | <p>【成果】 歴史学講座として、国史跡岡豊城跡指定15周年記念の現地ウォーキングとトークショーを開催した。</p> <p>【課題】 文化財への興味・関心を育むために、文化財講座の開催を行う。</p> <p>【今後の取組】 地域の文化財の最新の研究成果を広く市民に伝え、文化財への興味・関心を育むために継続して事業を行っていく。</p> |  |
| | | | 市全体 | | |
| | | | 【取組】 各種開発行為から市内の遺跡を保護するために、情報収集、事業者との協議、試掘確認調査、工事立会などを実施している。 市内の重要遺跡の範囲や内容を確認し、保存と将来の史跡整備に向けての資料の蓄積を行っている。調査成果は現地説明会の開催や発掘調査報告書の作成、広報誌への掲載等により広く伝える手段を講じている。 岡豊城北麓にある長宗我部一族の寺跡では、将来の史跡追加指定のための学術調査を実施する。 | | |
| | 16 | 市内遺跡発掘調査等事業 | 市全体 | <p>【成果】 区画整理事業や国営ほ場整備事業などの大型公共事業に加えて、民間開発事業に対応する本発掘調査を行い、若宮ノ東遺跡、成願遺跡、東屋敷遺跡などの成果から地域の成り立ちについて新たな知見を得ることができた。長宗我部一族の寺跡の学術調査では地形の変遷や場所ごとの性格の違いを具体的に知る資料を得ることができた。</p> <p>【課題】 調査成果を広く公開するために、報告書作成のための整理作業を進めていく必要がある。</p> <p>【今後の取組】 県内有数の遺跡密集地である市内の遺跡の保護のための調査を継続して行い、地域の歴史資源として活用していく。</p> |  |
| | | | 市全体 | | |
| | | | 【取組】 各種開発行為から市内の遺跡を保護するために、情報収集、事業者との協議、試掘確認調査、工事立会などを実施している。 市内の重要遺跡の範囲や内容を確認し、保存と将来の史跡整備に向けての資料の蓄積を行っている。調査成果は現地説明会の開催や発掘調査報告書の作成、広報誌への掲載等により広く伝える手段を講じている。 岡豊城北麓にある長宗我部一族の寺跡では、将来の史跡追加指定のための学術調査を実施する。 | | |

| | | | | |
|----|--------------|---|---|----------------------------|
| | | | ↑ 成 果 度 | |
| 17 | オナガドリ保護増殖事業 | <p>市全体</p> <p>【取組】 国の補助事業を受け、種の保存と増殖に関わる研究や飼育者の負担を軽減するために飼料の配布事業を行っている。 パンフレットの配布や大篠オナガドリ保存会と協力して紹介などを行い、啓発普及するとともに新たな飼育者の募集を行っている。 オナガドリの飼育と保存のための協力謝金を給付している。 最良種の作出に寄与するため、DNAの解析成果をもとにした人工授精を行う。 鳥インフルエンザ発生予防対策として、消石灰・消毒液の配布を行い、家畜保健衛生所と連携を取りながら、注意喚起を行っている。</p> | <p>【成果】 良質な鶏の育成を目指し、栄養価の高い配合飼料の導入を行った。</p> <p>【課題】 新たな飼育者の募集を行なっていく。</p> <p>【今後の取組】 特別天然記念物である土佐のオナガドリの保護・増殖のために継続して事業を行なっていく。</p> | ● 方向性→ |
| | ②市民文化の振興 | | | |
| 18 | 教養講座・子ども教室 | <p>市全体</p> <p>【取組】 高校・大学等との連携事業として、高知高専と共に教養講座を実施した。 東工業との夏休み子ども教室は学校の都合により中止となった。</p> | <p>【成果】 コロナ過の時と比べて開催回数も増え、参加人数が増えてきた。</p> <p>【課題】 募集人数をまだ絞っているため、人気の講座に参加できない方もいる。</p> <p>【今後の取組】 人数制限なくす、講座数を増やす、同じ講座の複数回開催等が可能かを高専と協議する。</p> | ↑ 成 果 度 ● 方向性→ |
| 19 | 地域交流センター文化事業 | <p>市全体</p> <p>【取組】 高知県立埋蔵文化財センター主催の企画展と地域交流センターMIARE!文化事業の共同実施で講演会を開催。 文化講座として「NPO法人まほろばクラブ南国」に事業委託をして実施。 ホールが所有するグランドピアノの試奏会を開催。</p> | <p>【成果】 12月10日に開催した講演会の参加者86名をはじめとして、各講座や試奏会に多くの方が参加した。地域の歴史や外国文化、音楽等に触れて、文化・芸術に対する興味・関心を高め文化活動の振興につながった。</p> <p>【課題】 事業数を増やしていくことが目標の一つだが、貸館業務とその他の業務と並行して事業を実施するためにはマンパワーとノウハウが不足している。</p> <p>【今後の取組】 各事業を定番化し回数を増やすことを検討。また新規事業の開拓にも注力したい。</p> | ↑ 成 果 度 ● 方向性→ |

| ③芸術文化の振興 | | | |
|----------|---------|--|---|
| 年度 | 実施事業 | 市全体 | ↑成 果 度 |
| | | | 方向性→ |
| 20 | 美術展覧会開催 | <p>【取組】 第63回南国市美術展覧会を令和5年12月3日から12月10日に開催した。一般の部と幼児・児童・生徒の部の同時開催で実施している。</p> | <p>【成果】 一般の部は展示総数174点で、特選8点、褒状11点、奨励賞12点であり、会期中の入場者数は全体で4,180人であった。県内でも珍しい大人と子どもの同時開催により、子どもの頃から様々な文化に触れるいい機会となった。</p> <p>【課題】 部門によっては出品数が減少していることや、今後の継続・発展の為にも若い世代の出品が必要である。また、事務局職員の負担が大きいことも課題である。</p> <p>【今後の取組】 R6年度より一般の部の開催場所を南国市地域交流センターMIARE!に変更することが決定しており、開催方法の一部変更が必要となるため、今後は業務委託を利用するなど、予算と人的負担のバランスをとりながら進めていきたい。MIARE!に場所を移すことを機に広報にも工夫し出品者の増加につなげる。</p> |